

# 県立並木中等教育学校自己評価表

目指す学校像	1 様々な体験を通して広く人間教育を行う学校 2 つくば研究学園都市の一角に位置するという地域性を生かし、大学や研究機関と連携して科学教育を行う学校 3 外国からの研究者・留学生との交流や海外語学研修などを通して、国際教育・コミュニケーション能力育成教育を行う学校				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
<p>セカンドステージ1年目の昨年度は、進学及び科学や文化などの分野で生徒のめざましい活躍が見られた。これまでの科学教育・国際理解教育・人間教育を3本の柱とした6年間の中高一貫教育の成果が出たと言える。本校の基盤ができあがった今、さらなる中等教育学校の可能性を引き出すため、新たな試みにチャレンジする時ととらえている。</p> <p>第1ステージの「教育理念から実践へ」から、第2ステージのテーマ「より高い教育水準・より豊かな教育活動をめざして」とした。教育課程・教科指導・学校行事等を再構築し、グローバルリーダーの育成に向けて教育活動を充実させたい。</p> <p>そのためにも自立した学習集団の構築をめざしたい。並木中等生としての自覚を深めさせ、生徒主体の活動を展開していきたいと考える。また、アクティブラーニングの推進により、全生徒が意欲的に持てる力を伸ばせるようにしていきたい。SSHについてはカリキュラム開発を急ぐ必要がある。</p> <p>生徒の人権を大切に丁寧な指導を心がけていきたい。</p>	1 意欲ある学校風土の醸成	○生徒主体の教育活動を展開する。 ・授業研究の推進…アクティブラーニングの導入、ICT活用 ・生徒会の活性化…生徒によるマナーアップ、生徒による集会、常置委員会の活性化 ・縦割り活動のスタート…学校行事や清掃活動において展開	A		
	2 志高く、進路実現に取り組む生徒の育成	○並木中等らしいキャリア教育を展開する。 ○生徒が自らの可能性に挑戦する進学指導を実践する。	A		
	3 SSH事業の推進	○中高一貫教育を活かした理数教育のカリキュラム開発と教材・指導法の実践的研究を加速化する。 ○科学研究部の指導法を充実させる。 ・科学研究コンテストの入賞者数の増加 ・科学の甲子園・科学の甲子園ジュニア全国大会出場そして全国優勝チームの育成 ・各種科学オリンピックへの出場者の育成 ○自己組織化・自立した学習集団を育成する。	A		
	4 6年間を見通した校内体制の確立	○6年間の教育活動を体系化する。(各教科シラバス作成) ○「課題研究」指導体制の充実を図る。(各担当の協力体制づくり)	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
1 校務運営 (教務)	SSH事業を推進するための教育課程編成や授業時間の確保、行事の調整を行い、学校の体制	SSH関係の講演会等を総合的な学習の時間に位置づける等、学校行事や年次行事の調整を行い、年間を見通した計画的な授業時間確保を行う。	A	A	・企画研究部SSHとの連携
		「課題探究」の授業を円滑に運営するための行事・日課等の計画や調整を行う。	A		・行事の調整と校務連絡会・

別紙様式 2 (中等)

	を確立していく。	SSH 事業の目的を達成するための学校設定科目の新設・改良を十分検討し、各教科からの要望、学校としての方針を踏まえたバランスのよい教育課程を編成する。	A	A	教科会の確保
	授業時間の確保に努め、生徒の可能性を引き出す質の高い授業が展開できるような学習環境・システムを整備する。	現行のA週B週C日課システムの利点を最大限に活かし、授業時間の偏りを減らすための曜日変更や行事の調整を行い、バランスのとれた学習進度を維持する。 自習時間を減らすための授業振替をさらに推進する。教務として授業変更を管理し、1時間の授業にこだわることで、生徒・職員ともに「授業を大切にする」意識の徹底を図る。 定期・実力テストに関する各教科・年次からの要望を取り入れ、結果が効果的に生徒に還元され、授業で培った力がより正しく評価されていくように、試験の位置づけや日程を十分検討していく。	A		・中等教育学校や SSH 指定校の特例を最大限に活用 ・学校行事と年次行事の調整
	6年間を見通した校内体制の充実を図り、「並木中等」のスタンダードを確立する。	アクティブラーニングをベースにした、生徒の自主的な学習態度を育成するためのシラバスを作成し、生徒に見通しを持った学習計画の立案を促す。 観点別学習状況評価について研修や情報交換に努め、生徒個々の学習方法のチェックや教科指導の改善に還元されていく評価方法を研究し、実践する。 保護者や地域に対するアンケートを実施し、学校外からの意見を取り入れていく。	B		・授業第一主義と年次内での授業振替の徹底
			A		・テスト期間の検討と教科・年次間におけるテスト問題の作成・活用方法の共有
			A		・授業及び教育課程編成に関する職員研修会の実施
			A		・評価方法に関する職員研修会の実施
			A		・学校評価結果の分析と情報発信
(総務)	本校の目指す教育活動の活性化を図れるような生徒の選抜を行う。	入学者選抜内規を検討する。 担当者の負担軽減と明確な役割分担で円滑な入試事務処理を実行する。	A		・継続した追跡調査の実施と分析・検討
	本校教育活動についての広報活動を充実させる。	学校説明会、学校公開等の企画・立案を再検討する。 学校案内パンフレットやリーフレットを作成する。 ホームページの構成やデザインを検討するとともにホームページ掲載を円滑に行う。	A		・事務処理作業の役割分担とスケジュールの検討
			A	・生徒主体の学校説明と ICT を活用したアクティブラーニング授業の展開	
			B	・業者選定及び業者との綿密な打合せ	
	儀式的行事を円滑に運営する。	入学式、卒業証書授与式、修了式等の企画・運営を円滑に行う。 校内の放送機器等の整備を行う。	A	・ホームページ更新マニュアルの作成	
			A	・式次第等の検討	
			A	・マイク、スピーカー等の整備	
(渉外)	渉外活動の充実と会員同士の親睦を図る。	P T A 総会、本部役員会を企画・運営する。 県高 P 連及び県西高 P 連との連携・協力を図る。 年次委員会、広報委員会、研修委員会、生徒指導委員会、支部会を開催する。 文化祭、ウォークラリー等への保護者の学校行事への参加協力を積極的に呼びかける。	A	・PTA 総会での教育活動報告の検討	
			A	・連携・協力の推進	
			A	・会の運営及び内容等の検討	
			A	・支部会、年次会等による働	

別紙様式2 (中等)

					きかけを継続
2 企画研究部	6年間を見通した「課題研究」の指導体制の確立を図る。	生徒一人一人の課題研究の充実、及び指導する教員の指導力の向上を図り、年間を通して「課題探究」授業の充実を図り、6年間を見通した「課題研究」の指導体制の確立を図る。	A	A	・前期課程における課題研究基礎スキル養成及び、指導力を高めるための教員向けのサポート体制、「課題探究」の授業の充実
	本校のSSHの研究課題を進展させる。	中高一貫教育を活かした理数教育のカリキュラム開発と教材・指導法の実践的研究及び自己組織化・自立した学習集団の育成を加速化する。	A		・ICT環境や活用の充実を図った上で本校SSHの研究課題への取り組みを加速させSSH指定2期目の達成を実現
	本校の教育の柱の一つである国際理解教育の充実を図る。	ユネスコスクールとしてESD教育と国際理解教育をリンクさせた教育活動を充実させる。	A		・県内唯一のユネスコスクールの活動及び本校の国際理解教育活動の充実
(並木メソッド)	1～3年次において課題研究の基礎となるスキルを養う。「課題探究」授業及び指導体制の充実を図る。	年間計画に基づき、1～3年次で総合の時間を使い、レポート作成、グループ研究等を行う。また興味のすそ野を広げるため、多読プログラムを行う。	A	A	・前期課程におけるより効果的な課題研究基礎スキル養成
		「課題探究」授業が年間を通してスムーズに実施できるように、発表会等の計画をしっかりと立て、授業のサポートを行う。また指導研修会を数回開催し、指導のためのスキルアップを図る	B		・指導力を高めるための教員向けのサポート体制の充実
(並木SGH)	国際理解教育・国際交流など特色ある学校づくりの取組を行う。 県内唯一のユネスコスクールとしてESD教育の取り組みを行う。	SSH事業とリンクを指せた国際理解教育を充実させる。 例：英語で科学を語る教育プログラムの充実サイエンスイングリッシュ・プレゼンテーション講座（後期課程生、ESゼミへの協力）	A	A	・ESゼミ等国際理解教育に関する活動のさらなる充実
		キャリア教育の視点を取り入れ、外部機関（学術振興会・JICA・土木研究所・産業技術総合研究所・企業等）にも協力を依頼して、各学年で取り組める国際教育的な行事を吟味し、当該学年に提示する。	A		・各行事の反省を踏まえ、より内容のある行事の実現
		海外から本校への訪問の受け入れおよび交流企画立案を行う。	A		・国際交流のさらなる実現
		ユネスコスクールの職員への啓蒙とESD教育を生徒に実施する。	A		・本校の国際理解教育のさらなる充実
		ニュージーランド語学研修の入札(8回生に向けて)を行う。	A		・語学研修のさらなる改善
(SSH)	SSH指定4年目として、研究開発課題に対する実践的な取り組みを行う。	理科・数学における系統的な指導内容と効果的な教材・指導法を開発する。	A	A	・汎用性の確保をめざし、今年度開発した教材や指導法のマニュアル化
		理科・数学を中心とした教科横断的な指導内容と効果的な教材・指導法を開発する。	A		・汎用性を確保するため今年度開発したクロスカリキュ

別紙様式2 (中等)

					ラム授業のマニュアル化
		実践的研究における大学・研究機関との連携方策を図る。	A		・理科出前講義だけでなく数学出前講義の実施
		国際性を育成する指導内容を開発する。	A		・理科や数学の授業におけるALTのさらなる活用
		他校との連携を図る。	A		・茗溪学園とのAP(Advanced Placement)学習会の回数の増加と内容の充実
		広報活動の充実を図る。	A		・ホームページのさらなる充実
		「課題探究」の指導体制の確立と教員の指導力向上を図る。	A		・課題探究指導教員研修講座の実施
		科学の甲子園，科学の甲子園ジュニアに向けた計画的に指導する。	A		・事前勉強会等の継続的な実施
		科学研究部の活動を推進する。	A		・充実した指導体制の確立
3 学校生活部 (生徒指導)	基本的な生活習慣を育成し，他人との協調性を養い，自己実現を目指す。	全職員の共通指導。	A	A	・前後期の職員の共通理解
		自主的に，挨拶をする・服装を正す・時間を守る，が出来るようにする。	B		・上級生が下級生の見本になるよう自覚化
		マナーアップ活動を通して，校則を遵守する態度の育成	A		・部活動のみならず，クラス・委員会での活動の促進
	保護者・関係諸機関との連携を密にし，問題行動の未然防止を目指す。	保護者との連携・協力を密にする。	A		・より保護者との連携を密にして，家庭との協力による事故の未然防止
		各中学校・警察等の関係諸機関との連携・協力をはかる。	A		・学校と警察の連絡制度を活用及び連携
		生徒事故の未然防止につとめる。	A		・日常から生徒の行動を観察し，小さな変化にも対応して更に未然防止
	安全教育の推進を図り，自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。	登下校時の立哨指導・巡回指導を計画的に実施する。	A		・特に雨天時の登校時指導を継続的に実施し交通安全，事故未然防止
		交通安全教育の徹底をはかる。	B		・定期的に講習会を開催し交通安全の意識を高揚
		定期的に自転車点検を実施する。	A		・今後業者と連携して実施
	(特別活動)	部活動を活性化する。	中等前期・後期課程の生徒を含めた中高6年間一貫の活動方法を，前年度に引き続き模索す		A

別紙様式 2 (中等)

		る。			実行
		部活動における効率的な活動を推進し、個の育成と集団のレベルアップを図る。	A		・活動時間や場所が少ないので効率よく活動
		部顧問の適切な配置を考え、学校全体としての指導体制をより充実させる。	B		・部顧問の適切な配置及び指導体制の充実
	主体性のある生徒会活動を推進する。	生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	A		・生徒会活動を全校生徒に知ってもらうよう、生徒会新聞や活動報告を継続
		中等前期・後期課程の生徒を含めた生徒会活動のあり方を、前年度に引き続き模索する。	A		・仕事内容を前期・後期と分担し、それぞれ責任を持って実行
		生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう、生徒の意識を高揚させる。	A		・定数以上の立候補者の確保
	学校行事の活性化を図る。	かえて祭の実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。	A		・多くの生徒が実行委員として活動し、計画運営を行うことができたので引き継ぎを充実
		中等前期・後期課程の生徒が一体化したかえて祭を作り出す。	A		・上級生主体で下級生を指導しながら運営
		中等前期・後期課程の生徒が同日開催となるスポーツデイを成功に導く。	A		・各カテゴリーで生徒主体の計画・運営ができたので、今後も継続
(保健安全)	生徒の健康・安全・健康教育を推進する。	健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行い、要治療者については早期治療を徹底する。	A		・健康診断の日程確保
		日常的な保健室利用生徒について、担任・保護者との緊密な連携をはかる。	A		・今後も、関係教員および保護者との連携
	校舎内の美化と安全に努める。	年次縦割りの清掃班による清掃活動の充実化をはかる。	B		・清掃時間の確保および生徒・教員の清掃に対する意識を高揚
		ワックスがけおよび清掃強化週間を実施し、校内の美化に努める。	B	A	・清掃強化週間における清掃活動の充実
		危険箇所の点検を行ない、改善に努力する。	A		・定期的な点検を行い、危険箇所の改善
		災害時等の対応マニュアルの見直しを行い、全職員に周知徹底する。	A		・消防署との連携による避難訓練を継続
		避難訓練を年2回実施する。訓練に際しては、地域との連携を図る。	A		・地域との連携による学校防災

別紙様式2 (中等)

(教育相談)	心の問題を抱えている生徒の早期発見と早期対応を図る。	学年と情報を共有し、休みがちな生徒に対して、チーム支援の充実を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年を超えて複数で生徒の対応に当たり、情報を共有</li> <li>・発達障害の生徒理解や対処法についての広報活動</li> <li>・学年主任や担任との情報交換を継続的に行い連携</li> <li>・スクールカウンセラーや養護教諭との連携し、保護者と丁寧な関わり</li> <li>・継続的に学年や担任と連携をして支援</li> <li>・スクールカウンセラーと担任の間をつなぎ、有効な支援ができるように必要な情報を提供</li> </ul>
		校内研修会を実施し、不登校マニュアルや相談室便りを発行する。	B		
	年次・保護者との連携を強化する。	生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイスをする。	A		
		保護者との連携を密にする。また場合によっては医療機関等の紹介をする。	A		
	スクールカウンセラー（SC）の活用を図る。	カウンセリングを受ける生徒に対して学校生活の中で支援する。	A		
		カウンセリングにおいて、SCと担任等の間の連絡調整を支援する。	A		
(ウォークラリー)	生徒による企画・運営するウォークラリーを実施する。	ウォークラリーの実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による企画・運営の促進</li> </ul>
(給食)	正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、食に感謝し、楽しく食事ができるようにする。	全職員の共通理解のもと、安全と食育指導上、適切な指示をしながら給食指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任のみならず年次全体で食育指導を継続</li> <li>・給食係や給食委員会による常時活動の活性化</li> <li>・給食指導を通して生徒とのコミュニケーションを深めクラス経営</li> </ul>
		給食係や給食委員会による常時活動の活性化を図り、給食の円滑な配膳や片付けを行えるようにする。	B		
		職員も一緒に給食を食べながら、適宜、食事のマナーの指導、栄養や食文化の理解、望ましい人間関係の育成を図る。	A		
4 学習進路部 (進路指導)	生徒・保護者への適切な進路情報を提供する。	進路だよりの発行により生徒・保護者に情報を提供。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路だより発行</li> <li>・進路ガイダンスの実施</li> <li>・面談の確保</li> <li>・発達段階に応じた進路計画</li> <li>・模擬試験を計画</li> <li>・土曜学習会の計画</li> <li>・夏・春休み課外等の計画</li> </ul>
		進路ガイダンスの実施により生徒への情報提供と啓発を図る。	A		
		個人面談の充実により生徒に高い志と進路実現を目指させる。	B		
	進路指導計画を作成する。	各種進路行事の企画・立案を行う。	A		
		模擬試験等の計画を行う。	A		
		土曜学習会の計画・調整を行う。	A		
		長期休業中課外の計画・調整を行う。	A		
(授業研究)	授業研究を推進し職員の学習指導力・進学指導力のレベルアップを図る。	模試等の結果分析により学習到達状況及び目標の共有を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模試分析と目標の共有</li> <li>・指導力の向上</li> <li>・授業力の向上</li> <li>・アクティブラーニング研究</li> </ul>
		教師向け研修会の実施により進路指導力向上を目指す。	A		
		相互授業参観や外部教員研修参加の促進により学習指導力の向上を目指す。	A		
		各教科におけるアクティブラーニング研究を促進する。	A		

別紙様式2 (中等)

(学習環境) (図書館運営)	学習環境を整備するとともに、 図書館運営を充実させる。	赤本等の充実を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要図書の実</li> <li>・知的好奇心の醸成</li> <li>・ブライツホール環境整備</li> <li>・学習環境の整備</li> </ul>
		図書の実と図書室利用の促進を図る。	A		
		学習館「ブライツホール」の利用を促進する	A		
		いつでもどこでも勉強できる雰囲気作りの促進を図る。	A		
5 PCシステム	IT機器を整備する。	ハードウェアを整備する。 (LL教室の古くなったPCを少しずつ入れ替えていく。MDMサーバあるいはOSXサーバの導入を考えiPadの一元管理を試みる。PCを確保し電子黒板用にセッティングする。職員用PCおよびファイルサーバの時刻調整を自動化しタイムスタンプを一致させる。サーバのファイルを整理し逼迫したバックアップ用HDDを効率的に運用する。生徒用PCのBIOS設定を見直す。)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PC室のPCの入れ替えに伴うLL室のPCの見直し</li> <li>・iPadの一元管理</li> </ul>
		ソフトウェアを整理・調整する。 (PCおよびiPadのソフトウェアライセンスを整理し、特にiPadに関してはVolume Purchase Programの導入を検討する。カリキュラム再編に伴い校務支援システムを調整する。)	B		
	ネットワーク環境の安全で安定な運用を図る。	セキュリティを向上する。 (教育情報ネットワークの更新に伴いデータの取り扱い方を吟味する。職員用PCのウイルススキャンを自動化する。)	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的なウイルススキャンの結果参照</li> </ul>
		ネットワーク機器を補修・構築する。 (教職員セグメントのスイッチングハブの老朽化に備える。事務室内のネットワーク環境を見直す。ブライツホールに教職員セグメントネットワークを構築する。教育情報ネットワークの更新に伴いハードウェアの調整を行う。)	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スイッチングハブ(カテゴリ5用)の準備</li> <li>・職員室内LAN配線の見直し</li> </ul>
6 事務部	教育環境の充実に努める。	生徒が安心して学校生活を送れる安全で機能的な教育環境の充実に努め、省エネルギー・省資源活動を推進する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で取り組める工夫</li> <li>・校内研修の充実</li> <li>・研修等を通して自己研鑽</li> <li>・風通しの良い職場づくり</li> <li>・該当年次の先生方への説明と協力依頼</li> </ul>
		「身なり・あいさつ・マナー・おもいやり」を基本に、明るく丁寧で適切な対応を行い、校内外の信頼を得る。	A		
		県民・保護者等に説明できる効率的かつ適正な事務の執行に努める。	A		
		学校事務の流れを理解・共有し、組織内においてチームによる業務遂行を行う。	A		
高等学校等就学支援金制度への対応を図る。	校内研修を通して自己研鑽に励み、二重三重のチェック体制を継続し、適切な事務処理を行う。	A			
7 1年次	粘り強く学習に取り組む生徒を育成する。	それぞれの考えを伝え合う場面を設定するなど、自己の成長を実感できるアクティブラーニングを取り入れた授業を積極的に行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動の充実と適切な評価</li> <li>・未提出生徒の家庭との連携</li> <li>・リーダーを中心とする計画的な企画・運営</li> <li>・自ら計画を立てて実行する</li> </ul>
		教科担当と学級担任が、一人一人の学習状況を共有し、適切な助言指導を行う。	A		
	互いに認め合い協力できる生徒を育成する。	校外学習や学年レク、学級でのレクリエーションなどを生徒自らが企画・運営したり、個性を發揮し活動したりできる場を設ける。	B		
基本的な生活習慣が身に付い	時間管理能力や規則正しい生活習慣を身に付けるため、スコラ手帳を有効に活用する方法を	A			

別紙様式2 (中等)

	ている生徒を育成する。	指導し、支援を行う。		B	力の育成	
		あいさつや学校の決まり、公共のマナー、提出物等に対する意識を高めるとともに、その振り返りを行う場を設ける。				・交通事故防止、公共のマナーの意識の高揚
	自分の将来像や目標を持ち、前向きに進もうとする生徒を育成する。	総合的な学習の時間での個々の研究や施設の見学、講演会などを充実させ、そこから自分の興味関心のある分野を探ることができる場を設定する。		A	・将来を見据えたキャリア教育の実践	
8 2年次	自律心が身に付いた生徒を育成する。(生活指導)	年次全体が常に静謐を心がけ、じっくり考える時間を作ることで、今の自分のすべきことを考え、目標に向かって進もうとする英気を培う。		A	A	・静謐時間の意識徹底
		スコラ手帳指導を軸に、クラス全体がきまりや提出日を守る集団となる雰囲気を作り、メリハリのある生活を送る生徒を育成する。		B		・計画的学習の個人差解消
	自他を尊重できる生徒を育成する。(生活指導)	道徳教育を充実させ、自他のよさに気づくような活動を計画的に行う。		B		・年間指導計画の見直し
		担任とクラスリーダーの連携、各クラスのクラスリーダーの話し合いを行い、生徒主体の活動を促す。また、様々な分野で多くの生徒がリーダー経験ができるようにする。		A		・すべての生徒の活躍の場の確保
	仲間と切磋琢磨し、高め合える生徒を育成する。(学習指導)	学び合いを推進し、他から学ぶことで自己が成長している実感を実感させた授業を組み合わせる。		A		・年次単位の授業研究
		学習の間違いやテスト直しを大切に、自分に必要な学習や課題外の発展学習ができるような助言を行う。		A		・発展的家庭学習の提案
	自己理解と進路意識の高揚を図る。(進路指導)	総合的な学習の時間での個々の研究や職場体験、様々な仕事に触れる経験から、将来の適性を見出し、将来の職業に関する興味・関心を高める。		A		・フィールドワークのポイント方法の周知
教育相談やキャリア学習を通して、自己を客観的に見つめ、将来像をイメージし、新たな目標を持てるようにする。			A	・生徒主体の立志式の計画運営		
9 3年次	規律ある基本的生活習慣を育成する。(生活指導)	校内や登下校時における挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりを行う。		A	A	・次年度も挨拶指導の徹底継続
		5分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。		A		・授業時間の確保を継続
		しっかりと挨拶の出来る年次作りを行う。		A		・挨拶の徹底を継続
	学習の習慣化と基礎学力を育成を図る。(学習指導)	家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫をする。		A		・効率的・効果的な家庭学習の習慣化
		前期課程から後期課程での過渡期であるので、基礎から発展へと学習内容に広がりを持たせ、幅のある授業を展開する。		A		・今後もより良い内容なるように継続研究
	自己理解と進路意識の高揚を図る。(進路指導)	大学・学部学科調べ、マイフューチャーセミナーによる進路意識の啓発を行い、後期課程に繋げる。		A		・進路意識が希薄になった点への改善策検討
		国内修学旅行を通して日本の文化伝統への理解を深め、さらに国際社会での情報発信能力の育成を図る。		A		・テロなどの危険性に配慮した、修学旅行のあり方を検討
(その他) 充実した学校生活を	部活動・生徒会活動への参加を推進する。特に部活動は後期課程まで継続していく指導を行		B	・部活を辞めてしまう生徒を		



別紙様式2 (中等)

	送らせる。	う。			減らす工夫
		学校行事・SSH関連のイベント・セミナー・行事への積極的参加を促進する。	A		・行事に携わる教員の負担軽減策
10 4年次	規律ある基本的生活習慣を育成する。	家庭との連携を密にして、問題の発生を未然に防ぐ生活指導を徹底する。	A	A	・積極的な生徒指導の推進
		生徒一人ひとりの自制・自立の精神と愛校心を育てるために、生徒の自治的活動を支援する。	A		・生徒の自治的活動の推進
	学習の習慣化と基礎学力の育成を図る。	基礎学力の習得とともに、応用・発展へと広がりのある授業を展開する。	A		・ICTを活用したアクティブラーニングの推進
		小テスト、週末課題、模試等の実施による学習の習慣化および学力向上を図る。	B		・学習時間の確保 ・効率的・効果的な学習方法の指導
	自己理解と進路意識の高揚を図る。	進路講演会、大学見学会、マイフューチャーセミナー（職業人講話）等による自己理解と進路意識の向上を図る。	A		・キャリア教育の充実
		面談、LHR、総合的な学習の時間等を活用して、生徒全体かつ個々に対して適切なアドバイスや情報提供を行う。	B		・教育相談の充実
	その他	継続した部活動への参加の推進を図る。	A		・部活動への参加促進
		生徒会や学校行事への積極的な参加を促進し、将来のリーダーとしての素質を養わせる。	A		・生徒会の活性化、リーダー育成
11 5年次	規律ある基本的生活習慣を育成する。	家庭との連携を密にして、問題の発生を未然に防ぐ生活指導を徹底する。	A	A	・最高年次として他の年次の模範となるよう自覚の養成
		生徒との面談を繰り返すことによって生徒理解や生徒の心の悩みを把握する。	A		・受験期を迎えるうえでのメンタル面でのサポート
	生徒間、生徒と教員間の集団としての信頼関係を形成する。	発展期を迎え、クラスの団結と仲間意識の向上のためLHR活動を充実させる。	B		・お互いを敬うことができる人間関係の構築
		生徒との面談を年次職員全員で取り組むことによって一層の生徒理解を図る。	A		・今年と同様に担任、副担任、主任との面談の実施
	学習習慣と基礎学力の育成を図る。	「家庭学習の記録」表を導入することによって家庭学習時間を確保する。	A		・基礎学力を早めに完成させ、応用力の養成
		授業中心に心がけるとともに、朝課外を導入し、ひとつ上のレベルをめざす。	A		・時間を有効活用するうえでの朝課外の継続
	異文化理解と自己理解について考察を深める生徒を育成する。	マレーシアへの修学旅行をとおして、異文化理解および異文化から自国の文化を再確認する。	A		・異文化理解及び自国の文化の再確認したことを今後様々な場での活用
		最終年次に向けて、大学模擬授業や進路講演会をとおして自己理解を深め、進路意識の向上を図る。	A		・生徒の進路実現にむけて様々な面でサポート
12	規律と活力ある基本的生活習慣	遅刻指導を重点的に行うことを継続することで、早めの登校時間を習慣づけ学校生活にリズム	A	A	・遅刻ゼロ運動の実施

別紙様式2 (中等)

6年次	慣を完成させる。	ム感を持たせる。			・学校生活のルーティン化維持
		生活記録表の記入と提出を継続させることで、生徒と担任間の意思疎通を密にし、生徒動向の把握に努める。	B		・自己の生活全般に対するマネジメント能力の維持向上
	生徒間、生徒と教師間の信頼感を醸成し、集団としての凝集性を高める。	主体的な学習集団を目指し、セルフスタディスペースやブライトホールの活用を促し、お互いに切磋琢磨する雰囲気の醸成に努める。	A		・自分流の学習スタイル確立への学習環境整備向上
		担任および副担任との面談はもちろん、時期に応じて年次職員との面談を行い、クラスの枠にとらわれず6年次職員団として生徒情報の共有を図る。	A		・151名全員についての情報を年次会議等で共有化
	志高い進路意識の維持による進路を実現させる。	学年集会や進路講演会での講話をとおして、生徒の第一志望への意欲を喚起、維持させる一方、複数回の面談をとおして個に応じた受験指導を図る。	A		・個別面談により、画一的ではない臨機応変の進路指導
		LHRや総合的な学習の時間においては、将来への目標確認を行うことで、自らのキャリア観を意識させ、課外学習においては質の高い学力の向上を図る。	A		・OBOGや業者による説明会を通じての進路意識向上
最上級生としての自覚により、下級生に範を垂れる。	年度前半の学校行事や部活動においては、悔いなく取り組ませることで、最上級生としてのリーダーシップを発揮させる。	A		・かえで祭等の年度前半の行事でのリーダーシップ育成	
	縦割り活動をとおして、最上級生としての振る舞いを自覚させることで、並木中等の学風をつくる覚悟を促す。	B		・先輩から後輩へ受け継がれる学風創造の意識向上徹底	
13 国語科	基本的な学習習慣の定着を図る。	学習ガイダンスを重視し、学習の見通しをもたせ、計画的に学習しようとする態度を育てるとともに、予習・復習の学習習慣を身に付けさせる。	B		・実態に合った学習ガイダンスを作成し、自主的な学習態度の育成
		単元ごとに明確な到達目標を提示し、段階をおった授業計画と評価計画を提示する。	B		・生徒の実態に合った授業と評価
	読解指導の深化を図る。	論理的文章・文学的文章の読解法について解説する中で、様々な文章についても読解できるようにする（「客観読み」の理解を図る。）。 生徒自らが、主体的に文章と対峙するような視点をもてる読解指導を展開する。	A		・幅広い文章に触れることができるような授業づくり
		生徒同士が読解の指導を行う、学び合いの機会を設けることで、読解力の向上を図る。	A		・「問題演習」、「ブックトーク」などを取り入れた授業の工夫
			A		・授業にアクティブラーニングを取り入れ、「学び合い」の機会の増加
	「書くこと」の指導を徹底する。	「読むこと」や「聞くこと」と関連させながら、ノート指導を基本とし、書くことを通して思考をまとめる方法を学ばせるようにする。	B		・授業の板書、レポートなどの課題の工夫
		各年次に合わせた作文や小論文の指導を行い、自分の考えを十分に表現できるように添削指導を行う。	B		・各年次での授業法、教材研究の共有化
	「聞く」態度の育成と、適切な話し方を指導する。	正しく内容を理解するために、状況に応じて「聞く」、「聴く」、「訊く」の3種類の「きく」を使い分けられる生徒を育てる。メモを活用した聞き方についても指導を行う。	B		・話し合いなどの機会を多く設け、聞く態度の育成

別紙様式2 (中等)

		場と内容に応じ、聞き手を意識した「話し方」を工夫しようとする態度を育てる。	A		・発表機会が多い授業を展開することで、話し方の指導
	研修会等を利用して、研鑽に励み、授業作りや指導法の向上を図る。	研修会等に積極的に参加して、授業づくりの参考になる情報を得る。	A		・研修への積極的な参加と、学んだことの教科内での還元
		年次進行に合わせた授業法の研究を行い、新たな指導法の構築を図る。	B		・各年次の実態にあった指導法の構築
		他の教科の授業を積極的に参観し、他教科の指導法の工夫を取り入れる。	B		・他教科とのよりいっそうの交流
14 社会科	6年間を見通した教科指導体制を構築する。	シラバスを活用し、観点別学習状況評価を円滑に実施する。	A	A	・校内の教育課程再編成の流れに積極的に関与できる体制づくり
		開校10年目を目標に、カリキュラムの再検討をおこなう。 ・基礎期(中1～2) 学習内容を精選し、言語活動を積極的に導入する。 ・充実期(中3～4) 効果的な先取り学習や教科横断型授業の研究を進める。 ・発展期(中5～6) 進路実現に必要な学力を養成する。 多様な進路希望に対応できる科目選択の在り方を研究する。	B		・従来のスパイラル型学習の良さと内容精選の両立の実現を探究
	学習意欲を喚起するための指導法の工夫と改善を図る。	アクティブラーニングを取り入れた授業改善をおこなう。 ・ICT積極的活用や言語活動の導入	A		・数回の主題学習ではなく、通常の一斉授業の中で日常的に活動できる方法を模索 ・授業第一主義の徹底
		自ら学ぶ生徒を養成するための工夫 ・課題提出や小テストを通じて、家庭学習を充実させる。 ・課外授業や添削活動・模擬試験を有効活用する。	A		・課題や小テストを工夫
15 数学科	基礎・基本の定着とともに応用力の養成をはかる指導を行う。	生徒が考えればわかる、やれば解けると思えるように、アクティブラーニングを踏まえた授業展開や説明方法を工夫する。	A	A	・教材や指導法を工夫し、開発
		定期的に課題を与え、家庭学習と充実させることで、基礎・基本の定着を図る。	A		・毎日の課題を提示
		生徒の学力に応じて学習内容を精選し、深化的・発展的な内容の学習も行う。	A		・受験問題を提示
	学習意欲を喚起する指導を行う。	SSHの取り組みを踏まえ、他教科と協力して教科横断型の授業などの数学的活動の充実を図る。	A		・クロスカリキュラムの授業を実施
		課題や課題提示の工夫をする。	A		・到達度に応じた提示
		数学的コミュニケーションの充実を図る。	A		・実生活での応用を提示
	個に応じた指導をする。	きめ細かな指導をするため、TT指導・習熟度別学習・少人数学習を工夫改善する。	A		・習熟度学習の実施
		生徒の実態を把握し、個に応じた助言・指導が行えるようにする。	A		・課外や補習授業の実施
16	学力の向上を図る。	オリジナルプリントや到達度シートを活用して、基礎学力の徹底を図る。	A	A	・更なる基礎学力の徹底

別紙様式2 (中等)

理科	6年間の系統的なカリキュラムを開発する。	「課題解決や考察の場面で、自ら思考・判断・表現できる生徒」を6年間の系統的なカリキュラムの中で育てるために、課題解決型の実験観察授業や考察力を育成する課題解決型の授業を展開する。	A	A	・実験観察授業数の増加
		発展学習として、外部人材を活用した講座を導入する。	A		・出前講座の内容の進化
	効果的な教材・指導法を開発する。	アクティブラーニングやICTを活用した授業を開発する。	A		・他の教員も活用できるような手法のマニュアル化
	教科横断的な指導内容を開発する。	数学の学校設定科目「数理科学A, B」を中心に、理科と数学の教科横断的な発展学習を開発する。	A		・数学とのクロスカリキュラム授業数の増加
17 英語科	総合的なコミュニケーション能力を育成する。	言語の使用場面を考え、4技能のバランスのとれた言語活動を実施する。	A	A	・4技能のバランスに配慮 ・実践的なコミュニケーション ・小テストや宿題を工夫 ・導入時における辞書指導 ・前期はインタラクティブ、後期はディベートを念頭に ・補助教材の活用 ・ALTの効果的な活用 ・校外語学学習の有効活用 ・6年間の指導を常に意識 ・授業公開を通して並木英語科メソッドの発展と継承
		オーセンティックな題材や視聴覚教材を取り入れた授業を展開する。	A		
	基本的な英語力を構築する。	自主学習ノートの定期的な提出やこまめな小テストの実施・評価と共に、効果的に生徒へフィードバックする。	A		
		辞書の活用を奨励し、語彙を増やすことを目的とした諸活動を実施する。	A		
	英語を用いた言語活動を積極的に行える力を育成する。	プレゼンテーションやディベート活動といった発展的な言語活動も通して異文化交流、異文化理解を行える力を育成していく。	A		
		教科書だけでなく様々な補助資料を用いて異文化理解を進める。	A		
	国際的な視野を広げる言語活動を構築する。	ALTや留学生とのコミュニケーション活動を通して、様々な考えに触れる機会を設ける。	A		
		外部機関やゲストティーチャーの活用や総合的な学習と連携した活動を実施する。	A		
	6年間を通じた並木中等英語科としての指導形態を確立し、発展させる。	教科会やちょっと見週間等を通して、各年次における英語授業の検証と継承を行い、並木英語科スタンダードを確立・発展させていく。	A		
		ディベート授業研究発表会の実施や公開授業等を通して並木での英語授業形態を外部に向けても発信し、県内の英語教育のリーダー的役割を担っていく。	A		
18 芸術科 (音楽)	基礎的な能力を養う。	実技を含めながら、基礎的知識についてわかりやすい説明を行う。	A	A	・実技の中で効果的な説明を実施 ・実技時間を重視し、二人、グループでの活動の中で練習する姿勢を育成 ・表現活動の目的を提示 ・グループ活動を工夫 ・ワークシートを活用し、より詳しく学べるよう工夫 ・鑑賞のポイントを提示し、その楽曲の特徴をつかめるよう指導を工夫
		反復練習を重視し、表現活動の能力を養う。	A		
	幅広い表現活動を充実する。	歌唱・器楽それぞれの表現活動を多く取り入れる。	A		
		表現活動の形態を工夫し、意欲的に取り組めるよう工夫する。	B		
	鑑賞教育を充実する。	様々な時代、形態、国の音楽を鑑賞することで、音楽文化への興味、関心を高める。	A		
		音楽の諸要素に着目し、音楽の構成についても理解しながら鑑賞できるようにする。	A		

別紙様式2 (中等)

	創作活動を充実する。	音楽の基礎知識を生かし、テーマに沿った簡単な創作を行い、音楽を別の視点で学ぶ。	B		・作曲に気軽に取り組めるような教材の工夫
		音楽の構成や進行に従って作曲を行い、発表活動を行う。	B		・音楽をつくり、音にして発表する過程を体験する活動の重視
19 芸術科 (美術)	基本的な美術の能力を育成する。	基本的な美術の基礎知識を身に付け、体験活動を充実させる。	A	A	・基礎基本を身に付けることができる体験活動の充実
		幅広い分野の表現活動に触れ、知識と技術を醸成させる。	B		・時間の制約範囲内で効率的な授業を計画
	柔軟な表現活動を育成する。	表現方法を自由に選ぶことで能動的な表現活動を育成する。	A		・広範な新技術を積極的に導入
		道具や素材の準備を充実させ、それらを選ぶことにストレスを与えない。	A		・美術ソフトを選択肢に追加
	鑑賞教育を充実する。	美術史からの抜粋により、時代や地域(民族)の美術を鑑賞させ関心を高める。	B		・鑑賞ソフトを選び鑑賞指導
		作品の発表活動により、自他の相互理解と自尊の精神を育てる。	A		・優秀な作品は校内の展示することで自身と環境意識を達成
20 保健体育科	体力を高め、心身の調和的発達を図る。	授業及び体力テスト等への積極的参加姿勢を育成する。	A	A	・積極的参加姿勢の育成推進
		体づくり運動の効果的な実践を行う。	B		・体づくり運動の時間を確保し、体力向上の取組強化
		自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。	B		・体力の低い生徒が多いため、体力向上策の実施
	運動を豊かに実践することができるようにする。	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A		・個々の能力に応じた運動で、楽しめるルール作り
		幅広い基礎運動技能を修得させる。	B		・より多くの種目の実施
		ルールを理解させる。	B		・正式なルールを理解した上で、ルールの変更の工夫
	スポーツマンシップを育成する。	規律ある行動をとる。	A		・集合、整列の徹底
		あいさつを励行する。	B		・授業開始や試合開始などにおけるあいさつの徹底
		マナー、ルールを遵守させる。	A		・マナー、ルールの徹底
	保健学習を充実する。	心身の発達と心の健康について理解させる。	A		・心と体の結びつきの理解
		健康と環境、障害の防止について理解させる。	A		・ICTを活用
		健康な生活と病気の予防について理解させる。	A		・各自の生活習慣の見直し
21 技術・家庭科	生徒の学習意欲を喚起する学習指導を行う。	生徒の興味・関心に答えるとともに、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する	A	A	・難易度と時間を考慮した題材の検討

別紙様式 2 (中等)

における技術分野		実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする。	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習時間の確保</li> <li>・個人でやりたがる生徒への対応</li> <li>・クロスカリキュラムの継続</li> <li>・知識と実習のリンク</li> <li>・未提出者への呼びかけ</li> <li>・身近な生活の中から題材の設定を工夫</li> <li>・知識や技能と生活の場面とのつながりがもっと連想できる授業展開の検討</li> </ul>			
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	B					
	科学的な理解と技術の習得を図る。	さまざまな事象を科学的にとらえる授業を展開する。	A					
		効果的な実習を行い、基本的な技術を習得する。	A					
		資料集や学習ノートを活用し、学習内容の定着を図る。	A					
	生活に生かす力を育成する。	生活の場面で生徒が取り組めることを意識した授業を展開する。	A					
ワークシートや実習を通して、生活の場면을想定できるよう授業を展開する		B						
2 2 家庭科	生徒の学習意欲を喚起する学習指導を行う。	生徒の興味・関心に答えるとともに、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活の中から題材の設定を工夫</li> <li>・体験をもとにした洞察力の育成</li> <li>・けじめをもったグループ活動による切磋琢磨</li> <li>・体験的になされてきた事象についての科学的理解</li> <li>・家庭の協力を得ての技術の習得</li> <li>・資料集や学習ノートの活用推進</li> <li>・長期休業中の課題などで、家庭に関する課題の解決を实践</li> <li>・保育所訪問や地域の活動などへの参加促進</li> <li>・ねらいを達成するための授業づくりと展開の工夫</li> </ul>			
		実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする。	A					
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	B					
	科学的な理解と技術の習得を図る。	生活を科学的にとらえる授業を展開する。	A					
		効果的な実習を行い、基本的な技術を習得する。	B					
		資料集や学習ノートを活用し、学習内容の定着を図る。	A					
	生活の場での実践力を育成する。	課題をみつけ改善できる実践力を身に着ける。	B					
		保育所訪問や地域の活動などの参加を促し、学んだことを生かす態度を育てる。	A					
		生活者として、深い洞察とより良く生活を改善していこうとする視点を育む授業を展開する。	A					
	2 3 情報科	IT 活用及びコミュニケーション能力を育成する。	実習の中で基本的なビジネス用ソフトウェアを利用する。			A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が基礎的なスキルを習得</li> <li>・日常生活で実践できるよう意識化</li> <li>・作品の共有や発表時に特に</li> </ul>
			情報の検索、加工、発信という基本的な IT 活用プロセスを扱う。			A		
			グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う。			B		

別紙様式2 (中等)

					意識して働きかけ
	情報倫理を育成する。	知的財産権について、いろいろな場面で扱う。	A		・社会における重要性も含めて授業化
		情報倫理について、自分で判断できるように指導する。	A		・文化庁等の視聴覚教材を有効的に利用
		情報モラルを重視した指導を行う。	A		・多くの場面で指導することで生徒への意識化
	他教科や外部組織との連携を図る。	学校行事とリンクした実習を取り入れる。	A		・語学研修報告書などの継続
		他教科や外部組織との連携をいろいろな場面で試みる。	A		・特に課題探究との連携強化
24 道徳	望ましい生活態度を身につけ、互いの個性を尊重し、自主的・自律的な行動をしようとする態度を育てる。	道徳教材「ともにあゆむ」を計画的に扱うとともに、学級や学年の生徒の状況を把握し、生徒の実態に応じた題材を提示する。	A		・生徒の実態を踏まえた指導内容や指導方法の創意工夫
		社会人講師による講演（マイフューチャーセミナー）を通して、学校での経験が、社会に出たときに、より良い人間関係の構築と円滑な社会生活の維持に活かせることを実感する。	A		・ゲストティーチャーの効果的な活用
		道徳の授業や、文化祭などの学校行事等において、クラスやグループ内で意見交換や話合いの場を設け、他者の考えを参考にしながら自分の考えを深めさせる。	A	A	・校内推進委員会を中心とした体制整備の充実 ・校内研修の充実
		授業で考えたことを、自分のこれまでの考え方や生活と比較し、これからの自分の生き方に反映できるようまとめる。	B		・校訓にある、自尊・自立・自制の精神の育成 ・学校としての指導の重点や方針を明確にした道徳教育全体計画の作成
25 学級活動	学校全体や、各年次、各クラスで、生徒主体の活動の促進を図る。	生徒会主催の全校集会や、生徒主体の年次集会を開き、生徒主体の取り組みができるようにする。	B		・生徒会主催の集会や、生徒主体の年次集会の年間行事計画への位置づけ
		学級での一人一役の実践と工夫を図る。	A		・自主、協力、創意工夫、責任をキーワードとする計画と評価の実施
	集団や社会の一員として望ましい人間関係を作りよりよい生活を築こうとする気持ちや自己を生かす力を養う。	校外学習等において、生徒主体の計画を作成する中で、集団の一員として望ましい人間関係を築けるようにする。	A	A	・集団としての意見をまとめるなどの話合い活動 ・学級・学校の生活や行事を楽しくするためのきまりを自分たちでつくって守る活動などの充実
26 総合的な学習	テーマを追究し、課題を解決する課程において、課題発見能	「地域再発見」というテーマで、かえで祭において、自分の住んでいる地域についてポスターセッション方式で発表することを通して、探究のスキルを育てる。（1年）	A	A	・地域学習に代わるテーマの検討

別紙様式2 (中等)

の時間	力、情報収集・活用能力、課題解決能力を育成する。	科学・国際・人間・地域の分野から興味にあるテーマについて「課題研究」を行う。文献調査・講演会・校外学習等を通してまとめ、発表をし、課題発見能力、情報収集・活用能力、課題解決能力を育てる。(1年)	A	・研究の方法の計画立案と実践についてのスキルの育成
	昨年度の課題とESDの活動から自己課題を設定し、情報収集・再構成力、課題解決能力を育成する。また、自分の適性や将来像を考える力を養う。	12月までの活動として、昨年度の研究(科学・国際・人間・地域)の課題とかえで祭のテーマ「Education For Sustainable Development」を絡め、課題を決定し、文献調査、実験・フィールドワークを行いながら研究を深いものにする。(2年)	A	・系統的なフィールドワーク指導
		1月以降の活動では、自己理解を深め、職業調べや職場体験を行うことを通して、職業の多様性や自分の適性を理解させ、職業観を育成する。(2年)	A	・生徒に応じた新たなキャリア校外学習開拓
	進路学習や文化的体験を通して、自ら課題を追究し、深く調べる能力を伸長する。	「日本の文化を知る」ことをメインテーマとして、国内修学旅行への事前学習を通して、我が国の歴史や伝統芸能にも触れる体験をする。(3年)	A	・自らの研究内容の選択を充実させる取り組み
		マイフューチャーセミナー、大学見学、進路講演会を中心とした進路学習において、個々の進路に対する視野の拡張を図る。(3年)	A	・マイフューチャーセミナーの企画・運営の工夫
	職業観や学問に対する視野を広げていく中で、将来の自己理想像を構築する。	マイフューチャーセミナー(職業人講話)や道徳の授業を通して、職業観や生き方に対する意識を高める。(4年)	A	・マイフューチャーセミナーの企画・運営の工夫
		大学出前授業、進路講演会、文理選択説明会を中心とした進路学習において、個々の進路に対する視野の拡張を図る。(4年)	A	・時期に適した進路資料の提供
	自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら理解しようとする能力を養うことで将来の進路実現につなげる。	「異文化理解と自己理解」というテーマで、マレーシアへの修学旅行をとおして異文化理解と異文化から自国の文化を再確認する。(5年)	A	・修学旅行で得た異文化理解と自己理解の継続
		自己の進路について、多方面から情報を集めることで具体的な進路を見いだせるよう一助、そして、最終年次に向けて意欲の向上を図り、進路実現を目指す。(5年)	A	・出前授業や講演会、OBOGガイダンス等の最終年次に向けての活用の仕方
	6カ年教育における諸活動をとおして、自らの生きる道を、主体性を持って選択し決断できる能力を育成する。	「進路実現と主体的な生き方の模索」というテーマで、進路情報の収集を進める一方、進路講演会などをとおして、その都度自己を見つめ直す機会も設ける。(6年)	A	・進路選択を通しての自己実現の達成状況の把握を継続
並木中等での6年間の総括をすべく、時期により作文やレポート作成を行い、振り返りと将来への展望を促す。(6年)		A	・6カ年の学校生活を土台にした将来展望の把握を継続	

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない